宇治拾遺物語　六　（江戸後期）

椙山女学園大学デジタルライブラリー

椙山女学園大学図書館

宇治拾遺物語

宇治拾遺物語巻第六目録

一 廣貴依妻訴奴麻呂家へ入ル事
二 世を捨て寺に死人をかくす事
三 留志長者事
四 清水ちかくの二千度参詣者打入双六事
五 観音統化蛇人を救ふ事
六 賀茂乃社ゟ市聖紙来ル事
七 信濃国住く湯乃湯ゟ観音沐浴入事

三

神戸大学 図書館

八 帽子見られず孔子向谷北事
九 僧伽多羅剃髪事

つまをもつまをもいまはむかし菊原廣貴といふものあり者死して閻魔の廳へまゐりたるに乃ち閻魔おとゝ思ひきゝ給きつゝとそうるよりまれ行ゐ廳へ海ゝ子をのまして產をとゝこゝあれくゆる女たちよりそうち地獄へおちてくるしみ給ふ

くるふうまゝ入やおとゝあらてはたとて海城ましうそうもまゝ法ざる事あるかとてとゝまりしかとさるさふらいとゝきつゝこれをゝ申王乃給ふ海城乃うゝ入やおとゝ男ゝとゝてゝもゝ罪城法くゝとゝ法ゝ申ゝ

ゝ城うゝ入うゝこゝれくゝ死して地獄へおちてくるゝ

へゝ死ゝゝみをうをゝへゝゝいさゝかゝとゝゝゝ世を

をゝゝゝれゝゝゝ

をさをさ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

今うしゝ世そるもしくはみさをの忠桃園大納言伝
れをふかう大ねんなるせんぢ[illegible]
しあらしの[illegible]程まれし[illegible]
あそてとくりもかようを行ぬ[illegible]
くかあそんだりあんもぶくろ[illegible]
ぎりんさのもとにおこちうれしといふ[illegible]
持政[illegible]
坤乃角ハ塚のあるを築地とはきこゆ[illegible]
角ハ[illegible]
んさの塚をとりもてそ[illegible]
さぐめらまこぬれしんこもはの乃せしめはいこうう

くどくどしきものうぬぼれきこえとものうとやかましい塚と
ものうくいびきなどもなかにおのれの手枕あり あきてみるとも
屋乃さしサヌ六ちりなるもうはくもてくちも
ものいろのいろどはなるもとでおもいもずうはくも
なるねいろるとうてあるもいつもどうはて
紀乃今のつきうるもてもくいりきもいろ拙
なるもかうてあるもとぐむあるもあさりかり
くいもちまてるなどもの乾乃ちより風吹
きまこどいろくなるちりにもんなるとうせにきう
かねのはきりちりもつ程ものまらばいうきむ
うの人あるとも骨髪のちるいきのあらばく

風乃あくもちとものあるてあきちくまぬる希之
のもれあるとうれくるのはいあさまりるとはる梅
改屋いくもるもおくてうせはよきまいおのまるう
やというくびきり
まはむりしあ必よ留志も者とてもものり
紀もあるのはるあるいくるもあくもちれもきり
かまるのもるちりくくあるりもはくはあるも拙
くもせきもるおもなりもとのまものかれれで人
うもんきもてかくもくくるかとよ拙のあかでおりくな
しあるもきまこしあるよりあるう飯さきるくる拙ども紀と
あるりるかよしてそべ氣よりきて拙もしはもる恨

貪乃神まつらんとて人ごとのかのむかうしあくん
とするときにくまのゝ山ぶしとて人をつんざらん為よゆき
くらくうとくんと思ひくかりつよまこびさまを入
などして拾くうでぬきの乃あれりとにちらすあり
かりしとこび笑あうまとうて人をあれさろ
山ぶしかのりまにる獣をあきこあて乃ろ食
かあり乃ものしさ拾うもけだものくすんする屋
う今曠野中食飯飲酒大安楽に過明治門天勝
天帝天天乃ものをふ人あきころよ二人ゆて拾
をこれさを紙のむあんらくひろ事明治門帝天う

もまきろとさりとこれをろ紙帝天人をとて法ん
くきろとかてとかりしまるりや留志長者の所よ
化しかくあるよりもしあるく我山りして拾のむ
神紙まつりをるまうやとろ神をあきくもかく
かりかねどかくすあてそくあをとをまをさせ
ろ人まあよ紙をしめて法者をろれのかねよそ人
も法切者ろ食りかいろまで生かくあ拾ともとろ
かしくくどうろ生をれしこれくようろどくを
をろ者るかくうてまあとれ長志ろうり生を
くうどもこれあをてかく寝どもこれ人乃ろあれ
をろあさあくうあくをいんかくなのいりかくを

出るぞとて、くしまどもとれて、さてかの、かたちの
人、出きてかくとられぬ。帝、きこしめすあさましがりあり
あまたし。変化の物とられてそうもとられぬべきもの
つくる人、世間にはまことにあるべしとかやせあれ
ど、まのあたりの人、物とられぬる事、我、よしてあるべしと
をぼえざりけり。もちろんにたくらんとしてかくの
あしでさうらはんずるぞ。さてそうしたれば、ぬすびとをよしとして、
なをしてこれを帝大臣、これを海ふかくせばきぞんやい。
二人ありけれども、なをしたものあるべきにぞあらず。
なりをのれをもとにて二人ありけるつりをとれぬべきの
天ものの姿のあるべきにはあらずとぞ。

帝、あるべきものとおもひ給へ。なをのれをもとにて
くゑ須陀洹果成せるしるしとぞ。あるべきものとぞ。
もし物のしるしをとうとぬ。ひとりに帝大臣、人をみち
ぶりせ作ぬ。そうそうの日、先の時をうれ
ちんとしあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて
ぢをくれをもとにあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて
ちをくれをもとにあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて
今をもとにて人のもとにあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて
きりまぜるきをもとにあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて
なを諸をもとにあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて
くをもとにあるべしにぬ。ぬすびとの業、よりて

つまさしりしたる枝をくひてもとくはもちあるきたり。驚
乃きおれたる枝をくんとてさぶらはせてくひきる枝を
もてるいるる山乃わくれ谷乃くこきしまさかきまあるを
まさりたる巣くひるる枝こはきてつこ枝をくひたるを
くうまくくもくうりくちつまくこ枝をくひたるぬ
らんとおもひゆるはぐくまの枝おろさんとてきこのきて
みるにまをいくもぬこもまの枝くもれるもれくなも
をくぬこ人まいんでくまをこ枝のまの枝ん生たり
きしおりれそるおくこまを巣をくをくをくうこ
まをこ巣乃めぐをにしあるくみるまをもつくに先
くるを枝をうてあまをにおのもんるんをおりしん

どろどもをこ枝乃ぐるおをくく今をものをこにあ
らんとすをくにおまへくる枝おまをてまをおくおから
入ぬ谷乃くこ枝しまをくおもをまの枝まをちおう
くくれまの枝ををくくあるをまをくまを生をるおんをも
をにをあ枝くをあるをんをくをくはうこ井もをこに深
谷をうんあぐれをくをくにおを枝巣をいりかをのぐるべ
きくおもをいを深をくをを谷まをを入ぬまをくをを
いれをくを枝ぬんをを見をまをまをまをいぐあるをくをんを
見をくを巣乃をくをへくをををををくを深ををををを
をくををををををををををををををををををををを谷
乃ををををををををををををををををををををををを

よんゆべきかとうもあ〜めつるかんきうのまれとこ
ろ〜ちいさいこびとべきうのをれいさうそてあるべ
きこのうねじこれかのりてかくとうべくまあ子
とこをいきまいくへくもうれあ〜あくねまてをんう
ねうあるかりまれぐさらにんちをかりくむじきうあく
し〜そうとをむうこれ井もをくぬ井とにてさんうう
のうまうまうはよみしかとをんしかくをうしきうれとい
へしはとにさてあるうんとくくをいえをいうまず
あうねや て谷うしをべきかくなておううの
ねかあうのうさうてさ〜ねうあかこうもに魔をか
をくれ枝ををくへくをふ〜をみしうくうきう

あ〜いくかもたくらかて谷にをうつうねべ〜いうに
をくをんうこのかくをうかれ城角くうてせすぐせを
ねさあくくうを親を仮城よみをてまをうををうをを
をうをあうををこ八ををを行へくをい入をくをくへよ
ををのくをうをて代行をとうこのるいくうをもあく
をんくあてきうつる弘撫深ぬ海をあうをうを城よ
むはをくをををよのをあをを拓のうをくかを
くるのをれをををををあるにうあうんをを思をく角
ををうをれをををいををを大かるのくうかくをうを
なををを二丈をうをもあるうんををゆうを海をよをて
をれくををいをれいをのくうをくををくをれをんをうれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らんくい法もちんさてまつる経をとゝのまんこてく
引あをされし。あれ呑ゝてこちあるの宵よ法き
ゝてこ刀志乃法経ゝ弘揺深ゝ海乃ゝよてこ
ん系ゝいてあこ海ゝ川どハ行乃こゝ。ゝ志仏経乃
こちゝあこゝゝ海んじてゝ乱をさをゝをあこ海ゝ
と志てゝゝあこれゝさこくゝ。ゝこ。ゝとゝ
かぎゝこゝこゝこゝ乃あこゝ人ゝ当紙きてゝんあ
こゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

かくれさせまして法師となりぬ。かくなりける縁にてなる
のうきなげきあはれなる事をあさゆふ見つゝさる人ぞ出家し
いふ僧のあはれなる事にかゝりし法師の名をかゝするとこそ
ぬ。其こそいましまれしといふを訪ひて當世の名にたてる
頓誠也とぞいはれける法師よありて、すなはち横川は
のかたはらにかくて僧都の弟子になりてとて横川なり
ともみまかりとるのちにしばしそのあはれまつりまほしとせん

いつまでもむかしのまゝにて孔子の門の弟子
たちのうけたまはりて遵法し法を聚て城に
住みあるものゝ城をもむかしのまゝにて
かりそめにもこの城を私と号してつゐにこの
城法をもて聚乃ものゝ城きくあり
きものの所といひてこの城きれ孔子乃住みたる
まねくおのれ住みあまねくこの城をもてこれ
聚て法行をもれて若国王ときこゆ乃
ゆゑをもて乃上長をもれあり法をもて乃つゝ
まこゝろあるこれをもてこれ乃ものかと
きゝ人とをもくこれとしあるとしあるかと

人ありとをもてこれ義あるをもてこれ
乃といひてこれをもてこれ
しあるなかりけれとこれ
乃ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ
乃人ものゝ孔子乃ものゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かぐら殿おはしくあり。僧侶あり。ものしりとうの人をまねきよせて、おまへにいりなんとの人のかくていあるべきとそうよ。ゑくいとくいとくとれば、南てんぢくのものも、高乃さとをすぐれ、あをあるときこに、恵き風よりとれるまてこの時はまをとれば、せにめぐりをとぎあるを女をとりこのめばうるまてゆゆしんまをもとれば、位をにうことをうむこと、これ女をあり限あくゆゆしれてまひわざにみたをあまき人あるうまぬをべきとの男ばをぬくのこてくたくに日乃食をあたるやはかりをもくみあねまれもめ海めをとていんけをめいるををくくくくをけへこの思いたるを海中いをるねをとるか

きりあの乃ようくりをとをめくをきをりこれこめらををるを方ハ狭りてかくめをりりの乃うよをとりをとち狭くめをををれをみぐをきををあるとおくくれ市をいあ金ーとををれつるよをて後つをくありをれ高人をよびうれ狭くるるよをれあきををまをれくを女乃ねるるれまよ僧侶をんををめとしてを濱へをれゆをこねをを法華院落也男をれるへをしれくををもををををあをて親を城ををーあるよ沖乃方をりをあるを白る浜乃をを人をかりををて高人をるを人よをまてをををにねをぬ。

つとこれをうけとりてかへりぬ。さてもいねをもてみ
るに男たち一人とあり。ゆきをぬるにそこそこあるか
かぎりとさすらへあくくれもしかとこれあり。もし
るるとなきあくらゆえ丸ばかりとてゆくゆえたちさ
ちりさをいとそうとも思ひぬくさてをゆえたちさく
かりのとりてさきをいとくるにこの商人乃はに女ばに
ありかくうしをばゆるもの一人あるをるうとも
さ法ーて海へ落入ぬ。羅刹ら刹ばかりしかれて帰ぬ
破これまりとさてこの乃るの南てんぢくれのうの濱へ
つとてをせりぬ。商人いるもとうちばくかりぬうれるき
をんなうにうせぬうかさもくかさもとかれい

ばかりよきてしのちのをんなをんなよりかうばこ一ゆをとへ
くばこの中は僧侶のつまりてあるもの
うかうの乳のよきうりぬんーとをあれいくく
ばてをくおりていくんくくうばーくく僧侶
よりの金の銀ばかるべきむしーれちをとをや
ばむしつまーくおりれーはかくをくくうを行へ
いーはかかもてにのりのうばかばかばかばかばかば
てんをとんのおりのををばばうをとをーばかばを
をかくばきをるやられはかくんかんかくえはは
かくくのくーふをををとをのの思ばもれきていれ
ふをまはばんをてばーかりあくくれらばをば

よあくにのりたくうちあまりにをくかのしく
ねがくて。なをかのぐしもかりさぬりやをてさあく
とをくかがろきの郎乃ぬりはいもやとかりれぬで。
さきまでも僧かくこそ夫よ奥さく太刀筋狭てくろうさんと
はてかきりをくうくえこ僧侶多ろ筋あて内蔵
よ参てやあう。僧侶のさいとりどうーこえ乃まちり。
うきてよりれをはてくはまぬまいかれよりて
へやんさん。帝りはいはうと。ぶとと行へとやりよ。五郷
殿と人をはは筋てかぎりあくめてもどもぬん人
あり。帝きてうめーあれうきて消滅をふるいえん
あくいうたくうこぐくうこぐ乃女御后をれらんど

くーかるよこれつうれ乃ぐこ。これをいとうとこ乃ぐ
かくふものにはまぬ僧侶多ろ乃いろのとんとかぐり
めーかをは。僧侶多をとめてこそ行くは僧侶多
やをうあれをさくに。こうちへ入んるんきものう
あくはは。をくかを筋きこ乃ゆーーきーーを世を
出まーこんぐるとやてやぬ。帝ぶうーーきをめて。
こ乃僧侶多へいれりむなきまれりおうくうし
ろ乃方ろと入ーと。茲へーて作ーまきれぐ多者
ぐくるをさいーを世ぶんうーちかくめーて此海んするる。
きをくんはをかくこんめあるとさ海ぐくそくをつー
北手がぐうとあーーをてあうとふを世行てろち。

二百三日まで、かきあげり、行さきむこせ乃ゆまつりおとを
こしたらせ行そこで、僧侶多さいるとてゆしきまとを
まつとあんどあさ、ぎうぎこの所おまいもみなう
よおろかされ行ぬるこやせそも耳にきく入人の
かくて三日まるうぬる船のんうしこいまぐあぐぬ
まぬ式ようあ乃ぬくぐしるとあくさこ海をとれて。
まみをかたりて世よかうろ一をあり。口よ要を
付さうとこぐ一世中船のまそて打ちとこぶ
ぶくくて法よ入くらをぬ人くこ乃ぶ一やさむと
くくこの船ぐにさいるとこれこ船悔乃中ちり血
あうきてうあやしみくは法乃はをこれもありき

かうハ一法乃こまるとうれなりは物あ一さてこ
うちれくちるあとさとへんあとあ一長下男女法
うの一むまかぎうと所こよ乃東こ屋こて法よ
法き行ぬ僧侶多をめて法の所ぬ法めこを
あ一に僧侶多ア屋こさこへそしてかくあこれよ
くこへそもあんあこに逃おさこへき屋こう法ア法る也
ゝへ宣旨法義法くこあまこ法ちてさいこもへとア
よやさんまくにあちを法の屋一とあまれてつぎ
乃法力ききてこうんさいもの百人ゆくや矢羽一さる百
人の船一 乗あくおしさてこ法屋ちとやまれも
うれまくにおしさてこれぬ僧侶多ハ軍兵法と奥一